

●指標と目標

目標年度である令和 14 年度まで、現状を把握し、進捗評価を行うための指標を示します。

望ましい環境像	指標	現況 (令和 3 年度)	目標 (令和 14 年度)
未来によりよい環境を伝えるため、積極的に行動するまち	環境に関する講座、講習会等の開催回数	7回(中止1回)/年	現況より増加
	環境情報共有システム	町ホームページにて、環境調査実績等を掲載	環境情報の共有システムを構築し、機能的に運用
	環境の保全と創造に関する活動団体数	69 団体	現況より増加
ゼロカーボンシティを実現するまち	新エネルギー設置費補助金	太陽光発電、家庭用エネルギー管理システム等の単独・一体的導入を対象	制度の継続維持・拡充
	公共施設における EV 充電施設	1 箇所(令和 4 年度)	6 箇所
	公共施設からの温室効果ガス総排出量(公用車の利用を含む)	5,335t-CO ₂	前年度比 1%以上削減
	町域からの温室効果ガス総排出量	738 千 t-CO ₂ (令和元年度)	2013 年度比-46%
循環型社会を構築し、資源を大切にす るまち	ごみ総排出量 ^{※1} (集団回収、直接搬入含む)	10,269t/年	人口増に伴い、ごみ排出量が増えないよう抑制
	処理しなければならない一人一日あたりの量 ^{※1}	558g/人日	現況より減少
	最終処分率 ^{※1} (ごみ総排出量に占める最終処分量)	3.9% (401 t)	現況より低下
さまざまな生き物が住む豊かな自然に恵まれ、自然とふれあうことができるまち	土地利用面積の割合 ^{※2}	農地 20%、森林 43%など(令和 2 年)	自然環境の減少を緩やかな速度にとどめる
	生物の分布状況	データベースを活用している	自然環境のデータベースを公表、随時更新可能なシステムを構築
	自然環境に関する講座、講習会、野外活動等の開催回数	1回(中止2回)/年	現況より増加
	町民一人あたり都市公園・緑地面積	11.01 m ² /人(令和 4 年 4 月 1 日現在)	11.44 m ² (令和 12 年度、幸田町緑の基本計画)
きれいな空気と水のなかで、環境のことを考えた暮らしやすいまち	環境基準達成率(大気汚染、騒音、地下水)	大気汚染は光化学オキシダントが未達成、騒音は達成、地下水は一部未達成	100%
	水質管理目標適合状況(河川)	全 16 地点のうち 9 地点で大腸菌が管理目標に適合していない(令和 2 年度)	全地点での管理目標の達成
	下水道等普及率	99.5%(令和 2 年度)	100%
	公害苦情件数	141 件	現況より減少

【備考】現況データの出典について

※ 1 : 清掃事業概要(令和 3 年度)、※ 2 : こうたの統計(令和 2 年版)

第 2 次幸田町環境基本計画

概要版

私がつくる 四季とふれあう美しいまち

計画の趣旨

計画策定の目的

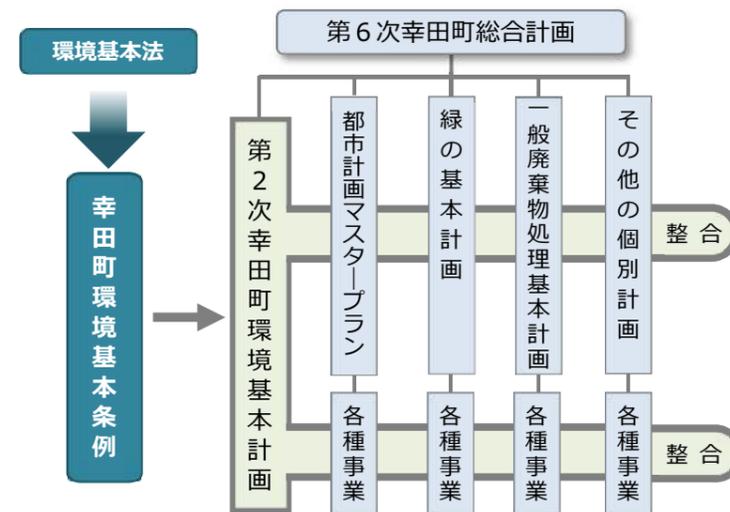
この計画は、環境の保全に関する施策を、総合的かつ計画的に推進するための計画です。

幸田町では、平成 15 年 3 月に第 1 次となる環境基本計画(第 1 次計画)を策定し、環境の保全及び創造に関する施策を推進してきました。平成 24 年度の間見直しを経て、第 1 次計画の成果を踏まえ新たな環境課題へ対応することを目的とし、第 2 次環境基本計画(以後「本計画」という。)を策定しました。

本計画策定にあたっては、第 1 次計画のスローガンを継承しつつも、望ましい環境像や環境分野の分類と施策体系を再構築しました。

本計画の期間は、令和 5 年度から令和 14 年度の 10 年間とします。

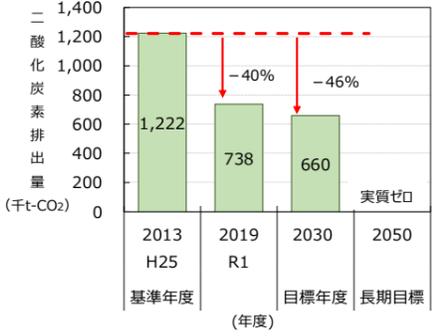
●図表 本計画の位置づけ



施策体系

望ましい環境像の実現に向けて、環境全般にわたる施策を展開し、今後の環境施策を推進する際の方針とします。

第2次環境基本計画の施策体系 ～ 私がつくる 四季とふれあう美しいまち ～

望ましい環境像	取り組みの柱	町の施策	町民・事業者の取り組み										
<p>1. 未来によりよい環境を伝えるため、積極的に行動するまち</p> 	<p>環境教育、環境学習を進め、環境情報を共有しよう</p> <p>みんなで協力して環境保全活動を積極的に進めよう</p>	<p>環境教育・環境学習の機会の充実 人材の育成 環境情報の共有</p> <p>環境保全活動の支援 環境保全活動の情報収集と公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然観察会や環境保全活動などのイベントへ参加しましょう。 環境の保全に関する講座やシンポジウムなど、学ぶ機会を利用しましょう。 環境問題への関心を高め、知識を深めましょう。 身に付けた知識や経験を、家族や周りの人と共有しましょう。 事業者は、環境マネジメントシステム（ISO14001s、エコアクション 21 等）を導入しましょう。 										
<p>2. ゼロカーボンシティを実現するまち [地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)]</p> 	<p>温室効果ガス排出量を減らそう</p> <p>再生可能エネルギーを普及させよう</p> <p>温暖化する気候に適応しよう 【新規】[地域気候変動適応計画]</p>	<p>環境負荷の少ない交通対策の推進 省資源・省エネルギー設備等の導入の促進 省エネルギー行動の普及促進 代替フロン排出抑制の推進</p> <p>再生可能エネルギー等の導入の推進 再生可能エネルギー等の適切な導入の推進</p> <p>熱中症対策の推進 豪雨災害対策の推進 気候変動の影響に関する情報の収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動車は、次世代自動車など環境性能の良いものを選びましょう。 アイドリングストップ、ふんわりアクセルなどのエコドライブに努めましょう。 電化製品や設備機器は、エネルギー効率の良い製品を選びましょう。 電力モニターやスマートメーター、HEMS、BEMS、FEMS などの省エネルギーに役立つ機器を導入しましょう。 冷蔵庫、エアコン等はノンフロンや低 GWP 化のものを選びましょう。 再生可能エネルギーや蓄電池の導入を検討しましょう。 夏季にはグリーンカーテンやすだれなどを活用するとともに、建屋の高断熱・高气密化を進めましょう。 ハザードマップで危険箇所や避難場所の確認などを行い、豪雨災害への対策を進めておきましょう。  <p>二酸化炭素排出量 (千t-CO₂)</p> <table border="1"> <tr> <th>年次</th> <th>2013 H25 基準年度</th> <th>2019 R1</th> <th>2030 目標年度</th> <th>2050 長期目標</th> </tr> <tr> <td>排出量</td> <td>1,222</td> <td>738 (-40%)</td> <td>660 (-46%)</td> <td>実質ゼロ</td> </tr> </table>	年次	2013 H25 基準年度	2019 R1	2030 目標年度	2050 長期目標	排出量	1,222	738 (-40%)	660 (-46%)	実質ゼロ
年次	2013 H25 基準年度	2019 R1	2030 目標年度	2050 長期目標									
排出量	1,222	738 (-40%)	660 (-46%)	実質ゼロ									
<p>3. 循環型社会を構築し、資源を大切に するまち</p> 	<p>ごみの発生・排出を抑制しよう</p> <p>資源を再利用しよう</p> <p>ごみを適正に処理しよう</p>	<p>ごみ減量に対する意識改革 ごみの減量化の推進</p> <p>ごみのリサイクルの推進 ごみのリサイクルシステムの構築</p> <p>適正処理の推進 不法投棄の防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> 不必要なものは買わない、食品ロスを減らすなど、ごみを減らす生活を心がけましょう。 生ごみの堆肥化や水切り等により、ごみ減量を進めましょう。 資源ごみは正しく分別しましょう。資源回収団体の回収や、店頭回収に協力しましょう。 リサイクルしやすい製品や、再生品を使用した製品を選びましょう。 事業者は、ごみ発生しにくい製品や再生品を使用した製品を取り扱しましょう。 ペットのフンの始末は適切に行い、家庭や事業所における不適正なごみの焼却はやめましょう。 地域の美化活動や清掃活動のボランティアに積極的に参加しましょう。 										
<p>4. さまざまな生き物が住む豊かな自然に恵まれ、自然とふれあうことができるまち [生物多様性地域戦略]</p> 	<p>多様な生態系を守ろう</p> <p>自然の保全と都市化との調和を図ろう</p>	<p>生態系の保全 森林の保全と育成 農地の保全 水辺の保全</p> <p>自然とのふれあいの場の整備 市街地緑化の推進 自然環境に配慮した開発 良好な景観の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生き物を飼うときは、最後まで責任を持ちましょう。 特定外来生物を持ち込んだり、移動させることはやめましょう（法律で禁止されています）。 地元の農産物、林産物を利用・販売しましょう。 水辺に親しむ取り組みや農業体験などに参加・協力しましょう。 有害鳥獣対策として、耕作放棄地の除草に努め、放任果樹をなくしましょう。 自然観察会など、町内の自然にふれる機会を持ち、自然の大切さを考えましょう。 公園などの清掃活動に参加しましょう。 里山整備や植林などの事業に参加しましょう。 										
<p>5. きれいな空気と水のなかで、環境のことを考えた暮らしやすいまち</p> 	<p>安心して生活できる環境を守ろう</p> <p>生活環境に対するマナーを向上させよう</p>	<p>公害防止対策の推進 水循環の保全 有害化学物質対策</p> <p>町民の生活環境に対するモラルの向上 事業者の生活環境に対するモラルの向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 下水道への接続、合併処理浄化槽への切り替えなどにより、生活排水の水質向上に努めましょう。 町が公表している環境調査結果にふれ、現状把握に努めましょう。 雨水貯留浸透施設を設置し、貯まった雨水を敷地内の散水などに利用しましょう。 有害化学物質等を使用する場合は、適正な使用・管理・処分に努めましょう。 町民総参加クリーン運動や清掃・美化活動に参加しましょう。 自宅や事業所周辺をきれいに保ち、ごみのポイ捨てをされにくい環境をつくりましょう。 夜間は音響機器の音量を小さくしましょう。 										

注：望ましい環境像が貢献する SDGs をアイコンで示します。